

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要について

学びの改革支援課

- 中学校英語は文部科学省C B Tシステム（M E X C B T）によるオンライン方式（C B T：Computer Based Testing）で実施しました。（来年度はすべてC B Tでの実施を予定しています。）また、I R T（Item Response Theory:項目反応理論）を用いた結果返却を行いました。
- 小学校において、国語の平均正答率が全国と同程度となり、算数の平均正答率が全国を下回りました。
- 中学校では、国語・数学の平均正答率、英語の平均IRTスコアが全国と同程度となりました。

※IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。

1 長野県の実施状況

学 校	当日実施学校数（集計対象学校数）	当日実施児童数（小6）・生徒数（中3）
公立小学校	346 校（内特別支援学校4校）	14,939 人
公立中学校	182 校（内特別支援学校3校）	14,298 人
公立小・中学校計	528 校（内特別支援学校7校）	29,237 人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

2 長野県と全国の平均正答数（正答率）・平均 IRT スコアの比較（公立）

〔上段〕：平均正答数／設定問題数 〔下段〕：平均正答率 ※中学校英語のみ平均 IRT スコアで表示

校種	年度 教科	令和8年度		年度 教科	令和7年度	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	7.8／13 問 60%	7.9／13 問 60.9%	国語	9.2／14 問 66%	9.4／14 問 66.8%
	算数	8.7／16 問 54%	9.0／16 問 56.4%	算数	8.9／16 問 56%	9.3／16 問 58.0%
中学校	国語	9.6／15 問 64%	9.6／15 問 63.9%	国語	7.7／14 問 55%	7.6／14 問 54.3%
	数学	9.0／16 問 56%	9.1／16 問 57.0%	数学	6.9／15 問 46%	7.2／15 問 48.3%
	英語	495	499	英語		

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

※IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

3 今回の調査を今後どのように生かすか

○調査結果から、児童生徒の「よさ」や「可能性」に着目し、各校の先生方が、目の前の子どもが本来持つ「その子らしさ」や「伸びる芽」を捉え、本人に伝えながらその成長を支援できるよう、県教育委員会として、各市町村（学校組合）教育委員会や学校における研修を支援する。

○学びの主体は子ども自身であることから、学校が子どもにとって「楽しい」「行きたくなる」場所であることが求められる。県教育委員会として、各学校が児童生徒質問調査の回答を子どもの声として活用し、子どもを真ん中に置いた学校づくりを考える契機となるような資料を提供する。

4 今後の予定

- | | |
|--------|---|
| 8月下旬 | 県教育委員会による調査結果の分析の公表（定例教委） |
| 10月上旬～ | 全国学力・学習状況調査を活用した市町村（学校組合）教育委員会主催の研修会等への支援 |
| 10月中旬 | 県教育委員会による全国学力・学習状況調査を活用した学校づくりや授業改善にかかわる資料の提供 |